



工房だより

～ペットのための自然食キッチンから～

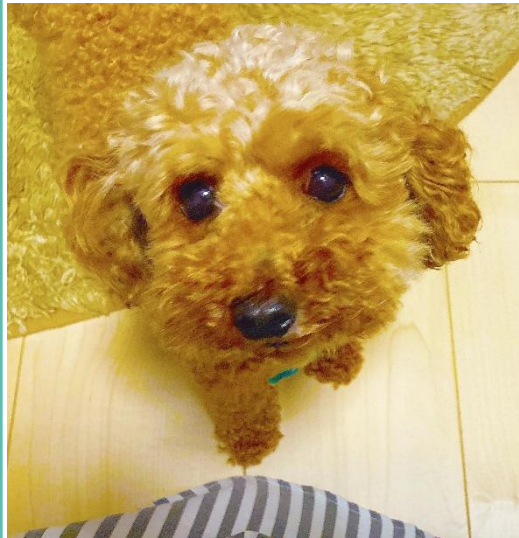
2026年8月号
vol.99



今月の一枚

れんげくん

8才 撮影時
トイプードル



道路で車に轢かれそうになっていた所を拾われた保護犬です。出会ってもうすぐ1年。心肥大でお薬飲んでいますが、超食いしん坊。食べすぎると、膨らんだ心臓と胃に気管が圧迫されて咳が出ちゃうので、食べ過ぎないようにしています。ごはん大好きです。

誕生月のワンちゃん大募集

10月から工房だよりの新コーナーで毎月ご紹介させていただきま
す。まずは10月生まれのワンちゃんのお写真と、年齢・コメントを送りください。掲載されたワンちゃんには、お誕生日プレゼントをお送りいたします。上記(左) [info](mailto:info@petfood-kitchen.co.jp) のメールアドレスまでお送りください。

【工房だよりアンケート】

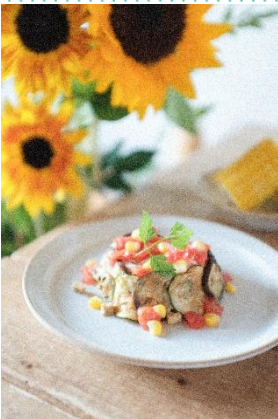
QRコードより3分ほどのアンケートにご協力ください。抽選で10名様に新商品の「腸美サプリ」を差し上げます。



わんちゃんと旬を楽しむ

第十七回 夏野菜

夏野菜のラタトゥイユケーキ



Instagramで動画配信中:

レシピ提案/撮影: yamashita_rei

Instagramからご確認下さい。

【レシピ募集】

ドッグフード工房を使用したオリジナルレシピを募集します。

Yamashita_reiさんに実際に作っていた画像や動画を撮影いただきます。採用された方には、3千円相当のおやつ詰め合わせを差し上げます。メール件名・レシピ応募材料・作り方・コメントを上記 [info](mailto:info@petfood-kitchen.co.jp) のアドレスまでお送りください。

第五回 高齢犬における

口腔ケアのリスク管理とQOL

今回は、加齢に伴う変化を考慮した、高齢犬(シニア犬)のケアについて解説します。

■高齢犬の口腔環境とリスク

高齢になると、長年の摩擦による歯の損傷や、免疫機能の低下、これまでに蓄積した歯垢・歯石による歯周病の重症化が見られやすくなります。重度の歯周病は、摂食時の疼痛を引き起こすだけでなく、慢性的な炎症反応により体に負担をかけ、QOL(生活の質)を著しく低下させる要因となります。また進行した歯周病は大きな問題を引き起こすことがあります。

・**口腔鼻腔瘻**…歯周病による骨破壊の影響で、鼻と口が繋がった状態です。感染が鼻腔に入ってしまった、くしゃみ・鼻汁を引き起こします。進行すると呼吸が苦しくなることや鼻血が出る場合があります。

・**外歯瘻**…顔が腫れ、破裂すると出血・排膿を伴う状態です。歯周病の他にも歯が折れた状態を放置していると発生します。

・**病的骨折**…下顎の骨折が多く認められます。下顎の奥歯の歯周病が進行した際に、下顎骨が薄くなってしまい、顎をぶつけた時や硬いものを噛んだときに折れてしまいます。



■「無理のないケア」の臨床的判断

高齢犬、特に心疾患や腎疾患など基礎疾患(持病)を持つワンちゃんは、全身麻酔下での処置(歯石除去や抜歯な

ど)のリスクを慎重に評価する必要があります。麻酔リスクと治療効果を考慮した際に、緊急性が高い場合やリスクが比較的少ない場合は、慎重に麻酔を行い、手術を行います。もし、麻酔リスクが高いと判断される場合は、これ以上の進行を防ぐための「保存的療法」が選択される場合があります。

・歯ブラシの刺激が強すぎる場合は、濡らしたガーゼや綿棒による清拭に切り替える。

・抗菌作用のあるジェルを用い、口腔内細菌数をコントロールする。

・抗生剤や消炎剤の投与による症状の改善(耐性菌リスクの観点から、長期的な抗生剤の連続投与は慎重に行う必要があります。実際の投与については、かかりつけの獣医師さんにご相談ください。)

「完璧なケア」を目指してストレスを与えるよりも、穏やかに口腔衛生を保ち、痛みを緩和することに主眼を置くアプローチが推奨されます。

次回最終回となります。「こんな時はすぐ病院へ!歯のSOSサイン」について解説させていただきます。

世田谷獣医歯科診療

獣医師 岡田 純一



Chap69 :夏を快適に過ごす

次回最終回となります。

今週末、工さんの用事で、急きょ房さんと二人で外出することになりました。お家では、叶ちゃんともつち君がお留守番です。暑さが本格的になるこの季節。お散歩だけでなく、お家の中でも熱中症には十分な注意が必要です。「二人だけでお留守番、大丈夫かな...」工さんも房さんも心配になりさっそく犬が快適に過ごせる室温について調べ始めました。

「室温の目安は 24 ~ 26℃、湿度は



50 ~ 60% なんだって!」二人は画面を見

ながら真剣そのもの。特に、子犬やシニア犬、短頭種は暑さが苦手なため、エアコンを上手に活用し、室温が 28℃を超えないようにすることが大切だそうです。さらに、犬は床に近い場所で過ごすことが多いため人が「ちょうど良い」と感じていても、床付近は思っている以上に涼しくなっていることもあるとのこと。「犬の目線で温度を確認することが大切なんだね。」サーキュレーターを併用すると、お部屋全体の温度が均一になりやすく、新鮮なお水をいつでも飲むようする必要があります。

「これで安心かな。」そう話しながらも、「もし停電になったら...」ということまで考えた二人は、タオルで包んだ保冷剤をケージの近くに用意しました。

二人が安心して出かけられるのは、「もしも」に備えた準備ができているからです。

